

# IPv4枯渇に向けて

～コンテンツ事業者はどうすればよい？～

---

2009/7/9

株式会社日本経済新聞社

一木 宏行

# 日本経済新聞社のインターネット環境

---

- 歴史的PIアドレス(138.101.0.0/16)で中核サービスを展開
  - 日本語による本格サービスは1996年～
- AS9593を運用
  - 2000年初に本運用開始
  - 複数のISPさんとトランジット
  - 多くのISPさんとJPIX等でpeering ——— IPv4 only
- <http://www.nikkei.co.jp/> 等のサイトでサービス
  - 現在のところ、広告モデルでの無料サービスが中心
  - 携帯、英文サイト、マーケット情報は有料サイト
  - ニュース、マネー情報、住宅サーチ.....など

# コンテンツ提供者としての 基本的な考え方

---

- 既存顧客の「満足感」を守りたい
  - あらゆるレイヤーで確実にコンテンツを届ける
- コンテンツをあまねく浸透させたい(リーチの拡大)
  - 社会の公器としての責務を果たすことにつながる
  - ビジネス的には媒体価値が上がる＝広告単価のアップ
- 多くのユーザにコンテンツを受け取ってもらい続けるためには...

# コンテンツ提供者としての 基本的な考え方 (cont'd)

- 常に、ユーザ環境にあわせて、配信環境やシステム、コンテンツを変化させていく必要がある
  - ユーザの使用ブラウザの変化に追随
  - ユーザのアクセス回線の大容量化への対応
  - デバイスの多様化 → 携帯、iphone ...

そして

IPv4アドレス枯渇期のユーザ環境の変化に対しては...

# IPv4枯渇期に向け

---

- 日経の場合、今後の拡張などでIPv4アドレスが枯渇する心配は当面ないが....
  - 歴史的PIアドレスで配信環境を構築しているため
- エンドユーザ側の環境変化への対応を検討/実施
  - LSN配下のユーザの増加
  - 専ら(あるいは主に)IPv6を使用するユーザの増加
    - IPv6メインのユーザがある一定のレベルに達したところで、IPv6の非公式サポート⇒公式サポートを行っていく
    - 基準については今後検討

## 実際のアクションとしては...

- IPv4枯渇の影響によってユーザ環境が変化したときに、迅速に対応できるように準備を開始することを**経営会議**(2008年末)で承認
- MFさんとの実験を通して、**現ユーザに影響を与えずにIPv6でのコンテンツサービスをサポート**する方法の検討および検証
  - サービスURLの検討
  - システム的な構成
  - など

